

1年SS基幹探究 探究基礎Ⅱの取り組み 報告

◇期間:令和4年9月～1月 基幹探究の時間(6コマ×5教科の30時間)

◇場所:各教室、化学・生物実験室、図書室等

◇参加者:1年探究科学科 80名

探究基礎Ⅱでは、探究基礎Ⅰを踏まえ「探究力」を構成する5つの力である「課題発見力」「仮説設定力」「計画・実証力」「考察力」「表現力」のそれぞれについて、各教科の学習を通して重点的に身につけることを目指した。数学、理科、英語、国語、地歴の5教科で各連続6時間の授業を行い、1学期同様16名×5班の少人数編成で学習に取り組んだ。学習指導は各教科2名の先生方によるチーム・ティーチングによって行われた。

国語では、「源氏物語」に登場する和歌の中から1首を選び、訳された時代、訳者、媒体によって現代語訳に違いが生じることを実証した。用例調査には、注釈書、全訳本、意識・二次創作等の文献を利用し、様々な視点から考察を重ねた。

数学では、 (x^n-1) の因数分解から法則性を発見し、自分たちで仮説を立てた後、証明する学習を行った。中間発表では生徒が互いに意見や質問を交わし、より有意義な研究となるように努めた。

地歴公民での元号についての学習では、歴史的名称に用いられている元号を探したり、今までの元号の中で頻繁に用いられている漢字を予想したりすることで年号に親しみつつ、改元のもつ意味や、元号が定められるようになった歴史的・文化的背景を探った。また、富山県への外国人観光客を増やすために何をしたらよいか考える学習では、地理情報サイトRESASを活用し、資料を読み解く能力を高めた。

理科では、物理、化学、生物の各分野について学習した。物理分野では浮沈子の浮き沈みする原理について、化学分野では食品に添加している身近な物質の判別方法について、生物分野では植物の葉を加熱したときに死環の生じるメカニズムについて考察した。

英語では、ウクライナ情勢や新型コロナウイルスをはじめとした時事的なトピックについて4人班で調査し、英語のプレゼンテーション・質疑応答などを行った。

これらの「探究基礎Ⅱ」での学習を通して、「探究力」の土台となる5つの力をバランスよく伸ばすことができた。また、仲間と意見を交換しながら結論を導き出す過程において、相手の伝えたいことを理解するコミュニケーション能力や、進んで考えを発表する自己発信力も培うことができた。2月のグループ研究では、これらの力を十分に発揮し、改めて自らの成長を確認することができるよう、努めたい。

